



公立中高一貫校
レポート #09

千葉県立 東葛飾中学校・高等学校

[千葉県柏市]

併設中発進で目的意識が根つき、 生徒の伸びしろを最大限に伸ばす 千葉有数の進学校の新たな次元



母体となる東葛飾高校は1924年設立、95年目の伝統の進学校。その自主自律の精神で国内外に雄飛する人材を輩出してきた。併設中学においても、「つなげる・つながる」をモットーに、教師と生徒一丸となつての「揺るぎない学力」の追求で、次代のリーダー育成を目指す!

取材・文/鈴木隆祐 写真/松沢雅彦
デザイン/タケウチフミヒコ (landfish)

千葉県は大まかに東西南と中央の4地域に分かれる。南はいわゆる房総、東は香取や銚子といった利根川下流域。やはり政令指定都市の千葉市を擁する中央と、東京に近い西の葛南を含む東葛地域が圧倒的に人口は多く、教育熱も高い。そうし

た「葛」を含む呼称は元来、東京府・埼玉県・千葉県・茨城県にまたがっていた、広大な下総国葛飾郡に属した証だ。よって、東葛飾高校もほとんど略称の“東葛”と呼ばれる。

私事だが、同校は私の40代後半になる母方の従弟の母校なので、いつも思い出話を聞かされていた。制服もなく、かつては授業で教師が「入試に出る」と、問題内容を説明しようものなら、ブーイングが起きたという大らかな校風。

しかし、2016年に中学が併設されたことにより、大きなターニングポイントを迎えた。2年前の14年には、千葉県教育委員会の肝煎りで高校に医歯薬コースも設置。これは県立学校改革推進

基本データ

沿革

1924年：千葉県立東葛飾中学校として創立。
1948年：新学制改革により千葉県立東葛飾高等学校と改称、男女共学開始。定時制課程設置。
1950年：松戸市立農商高等学校農業科を併合、農業科（後に園芸科と改組し、流山校舎に分離）設置。
1969年：流山校舎が千葉県立流山高等学校として独立。
2016年：千葉県立東葛飾中学校附設。

校長 平賀洋一

所在地 千葉県柏市旭町 3-2-1

交通 JR常磐線・東武野田線柏駅から徒歩約10分

出身著名人 流山児祥、桜田義孝、サンブラザ中野くん、三上智恵、岡野剛、柏木ハルコ…etc.

プラン第一次実施プログラムの一環で、県の医師不足の実態を踏まえ、将来の地域医療を担う人材の育成を図るのが目的だ。

医学部も国公立となると、東大クラスの理・工学部の進学よりも狭き門だ。それまでの東葛高は特に理数コースを設けるなどしてこなかった。医学部に挑戦できる資質の生徒も当然入ってきたが、ハイリスクを避け、他の理系学部を選択していたというのが実情だろう。しかし、それほどこの進学校でも見られた傾向だ。

平賀洋一校長も「高校段階だけでは本来、医師に向き不向き判断は難しい」と語る。そのリードタイムとしても、中学が機能してくることにな



医歯薬コースも開設し、理系シフトを強化

2019年度 中学志願状況

一次で受検者をまず1/3、二次でさらに1/4近くに絞り込んでいく方式。昨年度の男女合計倍率10.2倍から11.5倍へと確実に難易度が上がった。

| | 定員数 | 受験者数 | 倍率 |
|---|-----|------|------|
| 男 | 40 | 470 | 11.8 |
| 女 | 40 | 452 | 11.8 |

※受験倍率(通算) = 一次検査受験者数 ÷ 二次検査合格者数

るだろう。

「医歯薬コースはあくまで入学してからの希望選択制です。ただし、高1からプレ講座を受けさせ、本当に医療従事者になりたいかどうか、自身で判断させる、覚悟を決めさせる、高い意識を植え付けるんです。1浪2浪しても、関連学部に進みたいと」

対話する数学の魅力に瞠目

話題の医歯薬コースに関しては追って、推進役の教諭の熱いメッセージをお伝えすることにして、ひとまず中学の授業を見てみる。やはり数学が生き活きと展開されている。中学数学は幾何と代数を同時に学ぶが、中3の幾何では発展的な内容にも取り組ませていた。

「校庭に集まってポケモンに興じる、変な人たちから見た校舎までの距離が100mとし、屋上との角度が67°。君の身長はいくつ? 164cm…と

中3数学での対話的な学習が、高2化学でのデュマ法による、気体の分子量測定のテキパキとした実験に見事に繋がっていた





スピーディーでスポーティーな中3英語の展開も、教員たちの試行錯誤の賜物。通称いかそうめんは、教科書の英文をコピーして生徒と生徒をつなげる、今の東葛の「らしさ」の象徴だ

なると高さは？」

田代宗一郎教諭の、喩えを用いた測量法の説明だが、教諭はすかさず続ける。「計算は現状、PCにさせちゃえばいい。今はどうやって測ればいいのかを考える時間」。そう促されれば、生徒は定理通りではないやり方も提案してくる。そうした中で定理による計算が合理的だと納得もできるのだ。

東葛の授業はこのように、従来の講義型とアクティブラーニング（AL）が上手く融合しているという印象を持った。生徒自身に主体的に考えさせることは大切だが、的確なアシストを出したほうが、思考は飛躍的に深まる。そう思えたのが、中3公民の授業。「平等」で想い浮かぶ言葉、事例をまずは任意に書かせ、生徒同士でチェックさせ、なぜそう思ったのか、どうすればよいかを含めた発表にまで持っていく。

担当教諭は「一切教えていない」と言いながらも、さり気ないアドバイスを盛んにし、彼らがど



ンドン考えるよう仕向けていた。

「平等が叫ばれる場面はいろいろですが、悪平等と言われる状況もあり、あってもいい違いもある。学校には外国籍の生徒もいます。教科書に書かれていることそのまま受け止めるのではなく、みんな力はあるので、それをどう伸ばすか、いかに気づかせるかが大事」

クラスを2分割しての中3英語の授業も内容が濃かった。テキストは2冊使う。前半はおなじみ三省堂の「NEW CROWN」、後半はZ会の「NEW TREASURE」。「英語のニュアンスを英語で学ぼう」がモットーで、ロングマンの英英辞



中3公民でも生徒間のディスカッションを根底に、「平等」という大きな問題を扱っていた。教諭に間の手が見事に論議を活性化させる

典も使っていた。

驚いたのが「いかそうめん」と呼ばれる、教科書の文章をコピーし、バラバラにした短冊。それを生徒たちに配り、「Please find someone.」と互いに行き来させ、くっつけて元の文章にする、ちょっとしたお遊びだが、これが実にためになるのではと思えた。ミュージカルではないが、唱えかつ動きながら、覚えるフレーズは忘れない。



ハイテクと伝統が溶け合う、さすがの授業クオリティ

担当教諭の話は聞きそびれたが、以前に東葛の中学進路指導主事を務める英語科の山元洋教諭の論考を読んでいたのが、互いに影響を与え合っている授業だなとはピンと来た。そこで山本教諭はこう書いていた。

「英語は「実技系体育会」教科と私は考えている。すなわち、サッカーでいうシュートやドリブルと同じく、気が遠くなるほどの反復練習なくして英語の習得はない、という認識を持っている」（三省堂「TEN」Vol.34 掲載、『英語教師として私を支えるもの—過去・現在・未来—』より）

英語はサッカーの練習と相通じる

山元教諭はサッカー部顧問としての経験から、「その指導概念や方法が集団を動かすうえで大いに参考になっている」とも書いている。クラスはチームと。集団としての生徒を動かし、トレーニングを積ませるのは英語学習もサッカーでの指導も変わらない。単純なパス練習に動きを制約したパス練習やシュート練習を組み合わせ、それも反復させると、すべての制約を解いてゲームをした際に、子どもたちは想像以上の動きを見せるという。同じことが英語にも言えるのだ。音読やペアワーク、パターンプラクティスといった基礎を作り上げる反復練習を積み重ねさせた結果、プレゼンなどで思わぬ表現力を発揮するのである。

「二人で同じことを実践しており、授業前には

中3国語では古典をタブレットで学ぶ。調べられることは全部ネットで調べ、そこから独自の解釈へと導こうというのだ。高2の書道の集中力、和気あいあいとした中学最初の体育祭練習も印象に残った





中学生 240 名には全員ノート PC が貸与され、廊下のラックから授業に持って行く。過剰に ICT 化しないところにも、東葛の自立心を感じた。なんと購買はセブンイレブンの出張販売。しかし、nanaco は使えないようだ

ね。確かに我が校には、教科書的な授業を生徒が否定するような文化があった。それが対話的な深い能力を生徒から引き出していたんです。

今年から中3の2クラスも参加し、全26クラスで繰り広げられる合唱祭も、すべてが自由曲。文化祭も2部制で、クラスと部それぞれの発表に参加できるよう、2週に分けているんです」

「つなげる・つながる」は中学を併設してからの、東葛のキーワードのようだ。実際にその名を冠した総合学習もある。

「何とつながっていけば、正しい情報を得られて、解決の

手立てになるか。ネット社会だからこそその問題も多い。中学ではノート型 PC も全員に貸与し、Wi-Fi 環境も整ってはいますが、フィールドワークも大事にしています。1年の総合では地元の柏市、2年ではいわゆる修学旅行である伝統文化学習旅行に準じ、京都・奈良の現地調査、3年では自由研究をさせ、それぞれの課題研究の成果を文化祭で発表します。高校入学の直前には英語研修もある。

高校生に早くなりたいと中学生は思っている子は多いようですね。制服もありませんし、自由ですから。そもそも各中学のリーダーが集まっている学校。だからこそ、中高の連携には当然課題もある。論議を尽くしながら、学校経営をしています」



授業案を共有し、入念な打ち合わせも行う。授業実施後も互いにフィードバックを行っている」と同じ論考にあるので、同僚教諭とも絶えず意見交換を繰り返し、同じく高い水準の授業ができるよう、研鑽を重ねているのだろう。

中学創設に当たって赴任した山元教諭は、県立千葉中学・高校、教員人事交流で都立両国高校・附属中と、ずっと公立中高一貫校を渡り歩き、見聞を広め、指導スキルを磨いてきた。今、公立一貫校が注目されるのも、これだけのスタッフを揃え、最良の授業を目指しているからなのだ。

平賀校長も、「道具を与えて、その使い方や結果を教えるだけの授業にはしたくない」と明言する。「一つの授業には他の要素を含んでいる面がある。教科横断的なつながる授業を心がけたいです

人と人をつなぐのは言葉。中3国語の授業でも、タブレットを使った百人一首の授業をしていた。古典を ICT で学ぶとなると、大学で専攻した私からすると、まさに隔世の感があった。しかし、この授業が実に面白いのだ。

ちょうど採り上げていたのは、紀貫之の「人はいさ心も知らず ふるさとは 花ぞ昔の 香にほひける」という歌。それをネットで調べながら、解釈していこうという趣向だ。

みんなキーボードを叩きながらもお喋りをしている。西田千夏さんは「百人一首が嵐の曲にも使われている」と教えてくれた。アルバム『Japonism』に収録された、リーダーの大野智のソロ曲『暁』にも、三条院の歌「心にもあらでうき世に ながらへば 恋しかるべき 夜半の月かな」が引用されているというのだ。

ちなみに大野君推しかと思いきや、「桜井君のファンです」とのこと。こんなリラックスしたムードの古文の授業など初めてだ。

古典のエッセンスを合理的に学ぶ

嵐が百人一首を歌う、などといった情報もネットから得られるわけだが、担当の古川竜也教諭は「和歌の現代語訳もどうせ検索すれば、すぐ出てきてしまう」とクールだ。

「今の段階で表現技法を追ってしまうと、古典の言葉の魅力からかえって離れてしまう。時代背景とか情景も、ネットを通じて調べてしまうほうが早い。授業は正味40～50分。時間ももったいない。訳を読めば意味もわかる。それよりもっと具体的にイメージし、自分事として捉えてほしいんですね」

なるほどと膝を打った。「古文だからと敬遠され、こうした日本固有の感覚が共有されないことこそ惜しい」と古川教諭は語る。一首だけでもとことん調べれば、好きな歌が一生心に残る。古典を、いや何かを学ぶとは、要はその反復なのだ。

古川教諭は以前にも、生徒に『奥の細道』ならぬ、『僕の細道』と題する夏休みの課題を出したという。身近な道を巡り、写真も撮って俳句を添

地元千葉大、筑波大進学へ圧倒的な力を誇る

大学合格実績

| 国公立大学名 | 2019 | 2018 | 2017 |
|----------|------|------|------|
| 東京大学 | 2 | 3 | 6 |
| 京都大学 | 4 | 3 | 7 |
| 東京工業大学 | 8 | 10 | 11 |
| 一橋大学 | 7 | 4 | 9 |
| 東京外国語大学 | 4 | 2 | 9 |
| 東京医科歯科大学 | 1 | 1 | |
| お茶の水女子大学 | 1 | 2 | 1 |
| 千葉大学 | 33 | 27 | 30 |
| 横浜国立大学 | 5 | 4 | 1 |
| 筑波大学 | 35 | 33 | 23 |
| 北海道大学 | 2 | 2 | 1 |
| 東北大学 | 6 | 3 | 5 |
| 大阪大学 | 1 | | 4 |
| 首都大学東京 | 2 | | 4 |

| 私立大学名 | 2019 | 2018 | 2017 |
|---------|------|------|------|
| 慶應義塾大学 | 37 | 41 | 42 |
| 早稲田大学 | 79 | 84 | 122 |
| 上智大学 | 19 | 32 | 35 |
| 国際基督教大学 | 1 | | 3 |
| 東京理科大学 | 137 | 112 | 113 |
| 明治大学 | 95 | 95 | 102 |
| 青山学院大学 | 29 | 22 | 25 |
| 立教大学 | 58 | 61 | 71 |
| 中央大学 | 43 | 37 | 27 |
| 法政大学 | 84 | 58 | 55 |
| 学習院大学 | 12 | 15 | 15 |

えるのだとか。大人の視点では出てこない、ユニークな言葉と画像が目につくようだ。

最後に、医歯薬部長で化学を担当する田中晃二教諭への取材を、私は平賀校長に勧められた。田中教諭は発足準備段階から医歯薬コース・プロジェクトに関わっており、生き字引のような存在だというのだ。同校のサイトにも医歯薬コースについての詳細な説明が掲載されているが、そのコンセプトの項目には「医療業務は、今後とも社会に求められ、地域に貢献できる素晴らしい職業の一つであり、キャリア教育の観点からも積極的に推進したい」とある。

コースの設置には県のニーズが前提にあった。首都圏の千葉とはいえ、医師不足は深刻な問題。俄に承知しがたいが、その辺からまず田中教諭に問うてみた。

「千葉でも房総などでは過疎化が進み、無医地区はないとされていますが、人手不足は目に見えて明らか。東京にも接していますので、みんな大学



平賀洋一校長は千葉県立現代産業科学館館長から昨年転任。県民をつなぐ人材づくりに期待をかけられている。放課後、グラウンドではハンドボール部やサッカー部が、小庭ではプラスバンド部が練習に明け暮れている

進学とともにそちらに根づいてしまう。人材流出という意識も、当事者にはないんだろうけど(笑)。やはり通勤にも不便な田舎より、都心部の病院に勤めたがるでしょう。結果として地域によって、医師の数に非常に偏りが出てきた」

このまま少子高齢化が進めば、医師の需要はますます高まるが、今はインフラが整っているように見える地域でも、いつ急激に過疎化するかわからない。その偏りは極力是正せねばならないのだ。生徒とともに地域のニーズに応えるのは、公立校の役目でもあろう。校長や田中教諭の言葉には、それだけの説得力がある。

「医師は他利的な職業なんです。他者の基本的な人権から考えるのが、そのプロフェッショナルリズム。医歯薬コースでは多くの現役医師を講師に迎えますが、そこは皆さん、ほとんど同じことをおっしゃる。有名大に行きたい意識はどの生徒にもある。医者が高給というが、研修医で年収600万円。だったら、起業家になれば、もっと稼げるかもしれない。なんのために学ぶか？—に大きな答えがあるんです」



地域の抱える問題を解決するには、早期の人材開発しかない。そのために教育がある。田中教諭は校内で夏休みに開かれる、小学生対象の化学実験教室「わくわく実験クラブ」で講師を務めるなど、同校が地域のハブとして果たすべき役割を常日頃から強く意識している。

“覚悟”が拓く医歯薬学部への道

「医歯薬コースの発進には、地元柏市の医師会の協力も取り付けねばならない。当初はなかなか理解を得られませんでした。今は全面的なバックアップをいただいています。それなくしてはあり得なかったプロジェクトです。

高2のインターンシップを終了しないと、次のステップには進めないんですが、フルに5日間、一日中立ちっぱなしで、例えば3時間に及ぶ食道ガンの手術を見守ったりする。丸1日、インタビュー訓練で耳の遠い老人の話を聞いたりもします。そんな時も自分を開かないと、信頼してもらえないんです。

生徒たちはみんな、指針になる人に出会いたい



珍しくフェンシング部が中高ともにある。週5日の練習メニューを自分たちで決め、土曜日にはコーチが来て指導を受ける。現3年の田中智也君は、昨年11月に台北で開催された、U17のアジアサーキットに日本代表として出場。高校からフェンシングを始め、1年での快挙だった

と願っていますよ。医歯薬コースの指導には、私自身、大病を患って、病院には大変お世話になったので、実感を持って取り組んでいます」

田中教諭によれば、医歯薬コースの生徒に成績最優秀層だけではなく、多くが中堅レベルなのだそう。それが1浪で国立医学部の合格を決めるという。

今年6月にも医歯薬リベラルアーツ講座を開催。1年生と2年生それぞれを対象に、柏市医師会副会長である二人の医師を講師に招いた。1年生の課題は「多職種協働」。患者を中心とし、医師・薬剤師・看護師・ソーシャルワーカーなどがチー

適性検査の傾向と対策

一次は大きく2問構成で、<1-1>は与えられた文章や図・表等の資料を読み取り、課題を捉え、解決に向けて筋道立てて考え、表現する力を見る。<1-2>は自然科学的・数理的な分野において、課題を捉え、解決に向けて筋道立てて考え、表現する力を見る。

二次も大問2題と面接。<2-1>は課題設定力、資料等の活用力、解決のための計画・実行力、自分の考えや意見を筋道立てて表現する力を見る。<2-2>は聞き取った内容及び読み取った内容から、課題を明確にし、経験に基づき、自分の考えや意見を筋道立てて表現する力を見る。面接は5名程度の集団面接で各グループ15分ほど。志望動機はむろん、自己のプレゼンテーション的内容を含む。

ムを組む、最新の医療のあり方をグループワークを通じて学んだ。

「大切なのは覚悟。生徒だけでなく、家庭の覚悟も要る。それを引き出すため、高1では合同保護者会も開きます。いわば決起集会ですね(笑)。医大の学長の記念講演会とセットなので、生徒も発奮して人柄も変わり、学力的にもぐんと伸びてくる」

田中教諭のそんな言葉を噛み締めながら、放課後の部活の様子まで見守ると、辺りはすっかり暗くなったというのに、グラウンドではハンドボール部が、校門周辺の小庭ではプラスバンド部がひたむきに練習をしていた。そんな彼らの伸びしろは無限大にも思えるのだった。

明るく広い自習室は私語厳禁。高3生は受験準備に余念がなかった(取材時は昨年10月中旬)



フェンシング部をはじめ、部活でも集中力を発揮